

# 令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・低学年からの漢字の読み書きの継続的・定期的（小テスト、個別指導等）の取り組みにより、めあてをもって取り組む環境を意識したことで、言語事項で十分な伸びが見られた。
- ・学力調査を行った学年について、おおむねすべての項目で目標値を上回っている。さらに大田区の平均正答率、全国の平均正答率も上回っている。

### (2) 課題

- ・4年生と5年生は、基礎的な力は6割の正答率があり、6年生は7割の正答率である。一方で、活用して問題を解くことに関しては、調査を行った学年全て正答率が6割程度にとどまっている。実態に合った指導をしていく必要がある。
- ・学力調査を行った学年について、知識・技能の目標値は上回っているが、他の項目と比べると数値は低い。特に、書く力の数値がとても低い。文章を書く力について、継続的・定期的な指導をしていく必要がある。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較) △は目標値を上回っている観点。▽は目標値を下回っている観点。

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 区や全国平均よりも上回っている。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 区や全国平均よりも上回っている。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度▽ 区や全国平均よりも上回っているが、目標値に到達していない。
第5学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 区や全国平均よりも上回っている。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 区や全国平均よりも上回っている。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 目標値も全国平均も上回っている。
第6学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 区や全国平均よりも上回っている。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 区や全国平均よりも上回っている。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 全国平均よりも上回っている。

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 4年生では、「漢字を読む」は目標値をやや上回っているが、「漢字を書く」は目標値が6割に対し、正答率が5割と下回っている。	・ 4年生では、「文章を書く」は大きく目標値を上回っている。「物語の内容の読み取り」では、登場人物の様子について叙述をもとに捉えることが目標値を下回った。	・ 4年生では、「主体的に学習に取り組む態度」は昨年度の校内平均回答、今年度の目標値・区平均回答・全国平均回答を大きく上回っている。特に書くことにおいて意欲的に取り組んでいる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 5年生では、「漢字を読む」は目標値を上回っている。一方で、我が国の言語文化に関する事項についての理解が不十分である。読書量の少なさやコミュニケーション能力が低いことが原因であると考え。 ・ 6年生では、「漢字の読み書き」「言葉の学習」が目標値と同じ又は上回っている。日頃の漢字練習の取り組みによって、しっかりと定着していることが分かる。	・ 5年生では、「話し合いの内容を聞き取る」は全て目標値を上回っている。一方、「物語や説明文の内ようを読み取る」は目標値を下回り、叙述を基に、段落相互の関係や文章全体の構成を捉える力が弱いことが分かった。 ・ 6年生では、「内容の読み取り」が目標値を上回り、文章構成を理解したり捉えたりする力が高いことが分かる。	・ 5年生では「文章を書く」の記述の問題において、ほとんどが目標値を上回った。自分の考えを明確にして文章を書いたり、自分の考えの根拠や理由となる事例を加えて書いたりするなど、考えを言語化することに意欲的に取り組んでいる。 ・ 6年生では、目標値を大きく上回った。段落の役割や論の書き方など、学んだ知識や技能を生かして、自分の言葉で考えを書いて表現することができている。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 漢字の読み書きを継続して行い、漢字小テストやまなびポケット「ドリルパークミライシード」を活用し、定着をはかる。 ・ 段落の役割を意識した文章を書けるよう段階を踏んで指導を行う。説明的な文章の読み取りを通して、段落構成について学ばせる。	・ 伝え合うために必要な事柄を選べるように、交流や発表など児童が自分の考えを表現する場を設ける。 ・ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話せるように、聞く姿勢を指導する。 ・ 登場人物の様子や性格について叙述を基に捉えられるよう、児童に根拠や理由をもって自分の考えを述べるように指導を行う。	・ 学校図書館を活用し、本に触れる機会を設け、読書時間を十分に確保する。学習内容に合わせた本を教室に並べる、学期により学級文庫を入れ替えるなど教室の読書環境も整える。 ・ 問題解決型学習や主体的に取り組める体験型授業を展開する。また、活動を多くすることで意欲を高める。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・漢字や言語学習では、漢字小テストやまなびポケット「ドリルパークミライシード」を活用し、習熟度別に課題を設定し、学力の定着をはかる。</p>	<p>・書くことでは、内容の中心を明確にし、文章の構成を意識して書く指導を行う。</p> <p>・登場人物の様子について叙述をもとに捉えられるように、児童の発言や記述に対して根拠や理由を問いかえすようにする。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・学習効果測定の結果を個人面談で家庭と共有し、的確な児童理解を行う。</p> <p>・読書時間を確保するために図書時間を計画的に行う。また、地域の図書館から司書を招き、本紹介をしてもらい、興味を広げる。</p> <p>・ICTを用いて、意見交流の機会を増やし意欲を高める。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・まなびポケット「ドリルパークミライシード」を活用し、漢字や文章を読み取る力等基礎学力の定着をはかる。定期的に漢字の小テストを実施し、漢字の定着を図り、個に応じた課題を設けることで定着を確実にする。</p> <p>・連体修飾語などの言葉を学ぶ小単元の授業では、教科書に載っている問題だけでなく、プリント等で類似問題を解くなどして定着を図れるようにする。</p>	<p>・説明文の学習では、初め・中・終わりの構成や、筆者の考えが書かれている箇所を全体で確認することで、内容の要点や要旨をつかめるようにする。</p> <p>・登場人物の心情を、描写を基に考え、読みを深める面白さを味わわせるために、考えを交流させる場を意図的に設ける。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・学習効果測定の結果を個人面談で家庭と共有し、的確な児童理解を行う。</p> <p>・ICTを活用した授業作りをして、児童の意欲を高める。</p> <p>・学校図書館の活用や地域図書館を利用し読書時間を確保し、多種多様な図書に触れさせる。</p> <p>・考えを表現する場面では、個人で完結させるのではなく、話し合ったり、他者の意見を聞いて考えを見直したりして、自身の考えをまとめる機会を設ける。また、教師が一人一人の考えを価値付けていくことで自信をもたせ、前向きに学習に向かえるようにする。</p>

# 令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・第4学年の知識・技能を除き、全ての学年の観点において、目標値を上回った。
- ・資料から問いを見いだしたり、情報を読み取ったりすることの正答率が昨年度より上がった。

### (2) 課題

- ・問題解決の見通しをもととすることに課題がある。
- ・社会的事象の特色や意味を考え説明することや、読み取ったことを基に図や文などにまとめることに課題がある。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率（経年比較）

△は目標値を上回っている。▼は目標値を下回っている。－は目標値と同じ。

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	知識・技能▼ 思考・判断・表現△	知識・技能▼ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△
第5学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△
第6学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△	知識・技能▼ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度▼	知識・技能▼ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>第4学年は目標値を下回る結果になった。</p> <p>特に、工場の仕事の工程について資料を読み取る問題では、目標値を大きく下回った。</p> <p>一方、スーパーマーケットの工夫についての理解を基に、お客さんの願いを読み取る問題では、正答率が目標値を大きく上回った。</p>	<p>第4学年は目標値を上回る結果になった。</p> <p>特に、警察の仕事のうち、交通事故や事件を防ぐ仕事について考える問題では目標値を大きく上回った。</p> <p>一方、市の人口の変化について、資料をもとに考え表現する問題では、正答率が目標値を下回った。</p>	

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>第5学年は目標値を上回る結果になった。</p> <p>特に、八方位の理解を問う問題では、目標値を大きく上回った。</p> <p>一方、兵庫県の交通の様子について、地図を読み取る問題では、正答率が目標値を大きく下回った。</p> <p>第6学年は目標値を上回る結果になった。</p> <p>特に、日本の主な漁港と水揚げ量の資料を読み取る問題では、正答率が目標値を大きく下回った。</p> <p>一方、一方、正答率が目標値を下回った問題はなかった。</p>	<p>第5学年は目標値を上回る結果になった。</p> <p>特に、地震に備えて、自分たちにできることについて考える問題では、目標値を大きく上回った。</p> <p>一方、浄水場の役割について、資料を基に表現する問題では、目標値を大きく下回った。</p> <p>第6学年は目標値を上回る結果になった。</p> <p>特に、安全性の高い自動車づくりについて、資料をもとに考える問題では、目標値を大きく上回った。</p> <p>一方、正答率が目標値を下回った問題はなかった。</p>	

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

#### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>第3学年では、内容(1)の学習と内容(2)(3)(4)との関連を意識し、意図的に内容(1)の単元をデザインすることで、大田区を中心とした社会生活を総合的に理解できるようにする。</p> <p>第4学年では、都道府県の所在地や名前についての指導の充実を図る。</p> <p>例えば、47都道府県を1年間の月で割って覚えたり、一月に一地方の都道府県を覚えていくような計画を立てて無理なく覚えられるようにする。</p>	<p>第3・4学年は、社会への関わり方を選択・判断する活動が他学年と比べて多い。そのため、社会に見られる課題を踏まえ学習したことを基に、自分たちにできることなどを考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりする活動の充実を図る。</p> <p>例えば、児童が切実感をもてるような問いを、学習問題を解決した後に設ける。そうすることで、学習したことを基に、課題に対して自分たちにできることを考えられるようにする。</p>	<p>単元における「学習問題」「問い」「予想」「まとめ」を書き込むことができるワークシートを1枚ポートフォリオの形式で作成する。児童が1枚ポートフォリオを活用することで、毎時間の学習に見通しをもって取り組むことができ、学びを深めようとするようにする。</p>

#### (3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>第5学年では、地理的環境の学習において基礎的な知識や技能が定着するような指導の充実を図る。</p> <p>例えば、</p> <p>第6学年では、政治の学習において具体的な事実や意義などを政治の働きと結び付けて考えるようにする指導の充実を図る。</p>	<p>毎時間の「まとめ」を必ず2時間以上設ける。そのうちの1時間を用いて、調べてきた複数の情報を関連付けて社会的事象の特色や意味を考え説明する活動や調べてきたことを基にして自分で考えた図や文でまとめる活動の充実を図る。</p> <p>例えば、思考ツールを用いたり、簡易イラストを配付して関係図などを作成したりする活動を行う。</p>	<p>単元における「学習問題」「問い」「予想」「まとめ」を書き込むことができるワークシートを1枚ポートフォリオの形式で作成する。児童が1枚ポートフォリオを活用することで、毎時間の学習に見通しをもって取り組むことができ、学びを深めようとするようにする。</p>

## 令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・算数的活動を多く取り入れたり、展開グループの実態に応じた指導の工夫を行ったり、導入で自由に発言をさせたりしたことで、児童の関心意欲を高めることができた。
- ・ 数学的な考え方をを用いて自力解決することに苦手意識をもつ児童のために、問題解決型の学習を取り入れた。ノート・画用紙・ホワイトボードに自分の考えを書いたり友達と話し合ったりする時間を増やした結果、自分の考えを発表する児童が増えてきた。
- ・ 低学年のうちから文章問題を図式化する活動を行ってきた成果が、上学年の児童の様子からうかがえる。

#### (2) 課題

- ・ 苦手と思われる分野の問題練習に多く取り組ませ、理解度を高めることをねらったが、自分の言葉で説明することについては、もう少し時間をかける必要がある。
- ・ 既習内容の復習にプリントなどで取り組む時間をスパイラルに取ることを今後も意識して行っていく。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）△は目標値を上回っている。▽は目標値を下回っている。

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	知識・技能＝ 思考・判断・表現△	/	/
第5学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ (第4学年時)	/
第6学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△	知識・技能△ 思考・判断・表現▽ 主体的に学習に取り組む態度△ (第5学年時)	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）＊正答率について

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「分数の数直線上での表し方について理解している。」については上回っている。</li> <li>・「3けた+4けた=4けたの計算ができる。」「3けた-3けた=3けた」については大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「□を使って、乗法の式に表している。」については、大きく上回っている。</li> <li>・「長さや重さの単位を1000倍すると、kがつくことを説明している。」については上回っている。</li> </ul>	/

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>&lt;5年生&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「概数の表し方を理解している。」については上回っている。</li> <li>・「四則の混じった式の計算順序を理解している。」については下回っている。</li> </ul> <p>&lt;6年生&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「速さと時間から、道のりを求めることができる。」については大きく上回っている。</li> <li>・「基準量と比較量から割合を求めることができる。」については下回っている。</li> </ul>	<p>&lt;5年生&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「2つの折れ線グラフをもとに、目的に応じて考察している。」については大きく上回っている。</li> <li>・「計算のきまりを理解し、式に合った文章問題を選んでいる。」については下回っている。</li> </ul> <p>&lt;6年生&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「表から車両数と人数の割合を求め、どの路線が最も混んでいるかを考察している。」については上回っている。</li> <li>・「最大公約数を使って、問題を解決している。」については下回っている。</li> </ul>	/

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・たし算・ひき算・かけ算の計算力を定着させるために、タブレットなどを活用して繰り返し練習するとともに、計算の仕方を考える活動を充実させ、計算方法の理解を深めさせる。</li> <li>・「水のかさ」「長さ」については、実際に測る算数的な活動を取り入れ単位の感覚を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを表現するために、絵や図、式、文章などさまざまな方法があることを指導し、すすんで自分の考えをノートに書いて表現する力を育てていく。</li> <li>・自力解決の場面で十分に時間を確保し自分の考えを持たせた上で、グループや全体で発表し合う活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元により習熟度別や均等割りなど内容に応じたさまざまな形式で少人数指導を行い、個に対応した丁寧な指導を進めていく。</li> <li>・できるだけ生活場面や前時の学習から課題を設定することで、児童が自分たちで課題を見付けの主体的に取り組む態度を育てていく。</li> </ul>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・学年が上がってもスパイラルに既習内容を扱い、現在の学力の維持と定着を図る。</li><li>・ステップアップ学習により学習内容の定着を図る。</li><li>・「桁数の多い加法減法」「円」等、普段の生活であまり使わない単位に対しては、復習の機会をもつ。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・低学年のうちから、文章題の分かっていること・問われていること・答えに付ける単位に下線を引いたり、図式化したりする活動を通して、問題をイメージできるようにしていく。</li><li>・単位の再確認（含む：単位の有無）をさせる。</li><li>・学習の中で考える時間を十分に確保し、多様な考えがあることを知る機会をもつ。</li><li>・問題解決型の授業を意識し、自分の考えをノートに記述させてから発表するなど、表現する場を多く作る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・算数的活動を多く取り入れるなど、児童に興味・関心をもたせるような指導方法の工夫を続けていく。</li><li>・「グラフとわり算」「時間の換算」など他の教科と関連し、利用できる力をつけさせる。</li><li>・文章から問題の意図を読み取り、必要な情報を得て問題を解くよう指導の方法を工夫する。すぐに立式作業に入らない。</li><li>・展開グループの実態に応じて分かりやすい授業を行い、理解度を高め、自信をつけさせる。</li></ul>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・学年が上がってもスパイラルに既習内容を扱い、現在の学力の維持と定着を図る。</li><li>・ステップアップ学習により学習内容の定着を図る。</li><li>・「四則の混じった計算」「割合」等、普段の生活であまり使わない単位に対しては、復習の機会をもつ。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・問題解決型の授業を意識し、自分の考えを記述させたホワイトボード等を黒板に掲示し、友達同士で見合ったりする活動を取り入れる。</li><li>・自分の考え・問題の解き方などを筋道立てて説明できるよう表現の仕方も段階的に指導していく。</li><li>・答えの見積もりをしてから計算させたり、見積もった値と照らし合わせて振り返らせたりする習慣をつける。</li><li>・グラフの学習においては、他教科と関連したり、身近なテーマに沿ってグラフ化したりする活動を取り入れるなど、丁寧に指導する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・算数的活動を多く取り入れるなど、児童に興味・関心をもたせるような指導方法の工夫を続けていく。</li><li>・「割合」「約分」など他の教科と関連し、利用できる力をつけさせる。</li><li>・文章から問題の意図を読み取り、必要な情報を得て問題を解くよう指導の方法を工夫する。すぐに立式作業に入らない。</li><li>・展開グループの実態に応じて分かりやすい授業を行い、理解度を高め、自信をつけさせる。</li></ul>

# 令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・学習の中で、「気付き・疑問」→「問題」→「予想」→「実験・観察方法」→「実験・観察」→「結果」→「考察」→「結論」の流れで繰り返し指導を行い、児童の身の回りの事象や既習事項と関連付けて問題を設定することで、問題意識をもって学習に取り組むことができた。
- ・知識の定着を図るために、ドリルパークやプリントを使って繰り返し復習を行うことで、知識の定着だけでなく、問題の解き方に慣れることができた。特に、実験器具の使い方や実験手順の理解を深めることができた。
- ・教科担任制の導入により、学年間で指導内容に差がなく、一貫した指導を行うことができた。

### (2) 課題

- ・既習事項や生活経験を基に、予想を立てる力に課題がある。既習事項の復習を丁寧に行ったり、事象と関連する生活経験を想起させられるように発問を工夫したりする必要がある。
- ・実験結果から考察する力に課題がある。用語の確認や考察の例文の提示を行い、実験結果を分析して分かったことを、問題と照らし合わせながら表現する力を育む必要がある。
- ・一度学習した内容も、時間が経つと忘れてしまうことが課題である。引き続き、ドリルパークや動画視聴などのICT機器を活用しつつ、プリントによる復習も併用して行い、繰り返し様々な問題に取り組むことで知識の定着を図る必要がある。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較) △は目標値を上回っている観点。▼は目標値を下回っている観点。

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	知識・技能▼ 思考・判断・表現▼	知識・技能△ 思考・判断・表現▼ 主体的に取り組む態度▼	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に取り組む態度▼
第5学年	知識・技能▼ 思考・判断・表現▼	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に取り組む態度△	知識・技能▼ 思考・判断・表現△ 主体的に取り組む態度△

第6学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△	知識・技能▼ 思考・判断・表現▼ 主体的に取り組む態度▼	知識・技能△ 思考・判断・表現▼ 主体的に取り組む態度△
------	---------------------	------------------------------------	------------------------------------

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ 4年生は、目標値を下回る結果となった。特に目標値を大きく下回ったのは、「身近な自然の観察」や「太陽と地面の様子」の中の、基礎的な知識を問う問題で、生命・地球領域の単元に課題があることが分かる。</p>	<p>・ 4年生は、目標値を下回る結果となった。特に目標値を大きく下回ったのは、「じしゃくのせいしつ」の中の、実験結果から考えの根拠となる磁石の性質を説明する問題である。物質・エネルギー領域の単元の活用に課題があることが分かる。</p>	/

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ 5年生は、目標値を下回る結果となった。「電気のはたらき」と「月と星」の基礎的な知識を問う問題の正答率が低く、物質・エネルギー領域、生命・地球領域の両方で、基礎的な知識の定着に課題があることが分かる。</p> <p>・ 6年生は、目標値を上回る結果となった。正答率が目標値に届かなかったのは、「天気の変化」と「植物の発芽と成長」「流れる水のはたらき」の単元で、生命・地球領域の単元全般において、基礎的な知識の定着が課題であることが分かる。</p>	<p>・ 5年生は、目標値を下回る結果となった。特に目標値を大きく下回ったのは、「物のあたままり方」と「水のすがた」の中の、実験結果を基に予想が正しかったかを説明する記述問題であり、物質・エネルギー領域の単元の活用に課題があると分かる。</p> <p>・ 6年生は、目標値を上回る結果となった。正答率が目標値に届かなかったのは、「天気の変化」「植物の発芽と成長」の中の記述問題で、生命・地球領域の活用に課題があることが分かる。</p>	/

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実感を伴った理解が図れるよう、観察や実験などの体験的な学びを取り入れる。</li> <li>・器具を正しい手順で扱ったり、理科用語を覚えたりできるように、重要な語句や手順の説明を繰り返し行ったり、積極的に活用させたりする。</li> <li>・ドリルパークやプリントを活用し、基礎的な知識の定着を図る。</li> <li>・単元導入時には、既習事項の確認を丁寧に行うことで、知識の習得状況の把握と復習の徹底を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「気付き・疑問」→「問題」→「予想」→「実験・観察方法」→「実験・観察」→「結果」→「考察」→「結論」の学習の流れを定着させる。</li> <li>・予想では、既習事項の確認を行ったり、生活経験を想起させるような発問をしたりすることで、根拠のある予想を立てられるようにする。</li> <li>・考察では、書き方の型やキーワードを提示し、結果から分かったことを自分の言葉でまとめ、表現することを繰り返し指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の栽培や昆虫の飼育といった体験活動に取り組みせ、観察したり、調べたりさせる。</li> <li>・一人ひとりが実験や観察に関われるように、場の設定や実験方法の工夫を行う。</li> <li>・単元の終末では、学んだ事象と生活場面との関連を考える時間を設け、理科の事象に対して、日頃から関心をもてるようにする。</li> </ul>

#### (2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な用語について繰り返し説明や確認をし、積極的に活用させる。</li> <li>・実験器具の扱い方について、既習のものも含めて、教科書や動画資料を活用しながら繰り返し確認をする。</li> <li>・ドリルパークやプリントを活用し、基礎的な知識の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「気付き・疑問」→「問題」→「予想」→「実験・観察方法」→「実験・観察」→「結果」→「考察」→「結論」の学習の流れを定着させる。</li> <li>・自分で立てた予想をもとにして実験したり、予想したことを確かめるための方法を考えたりできるようにする。また、結果の見通しをもった上で実験に取り組めるようにする。</li> <li>・考察では、結果から分かったことを自分の言葉でまとめ、表現させることを繰り返し指導する。また、考察を交流する場を設定し、適切な考察の書き方を確認できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの事象や既習事項と関連付けた教材を工夫し、関心を深めつつ、問題意識をもって学習に取り組めるようにする。</li> <li>・一人ひとりが実験や観察に関われるように、場の設定や実験方法の工夫を行う。</li> <li>・単元の終末では、学習した事象が身の回りでのどのように活用されているのかを考えさせ、生活場面に結び付けられるようにする。</li> </ul>

## 令和7年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・ 町探検において、児童が興味関心をもったお店や施設にインタビューをして直接交流することができた。
- ・ まとめの活動で ICT を活用して意見を共有したことにより、友達の発見に気付いたり、比べたりしたことで、気付きの質を高めることができた。
- ・ 知的な気付きにつながる活動になるよう発問や導入の工夫を行うことで、目的意識をもちながら学習を進めることができた。

#### (2) 課題

- ・ 「おおたの未来づくり」に繋げていくための段階的な指導の方法を検討し、実施する必要がある。

### 2 大田区学力効果測定の結果分析と授業改善ポイント

	現状	改善策
低	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ なかよし広場や観察池など校内の季節を感じられるよう、定期的に観察する時間を設けている。これにより、季節の変化や植物や生き物に触れる機会を確保している。</li> <li>◆ なかよし広場で野菜や植物を育てる活動や「じぶんでチャレンジ大きくせん」で家庭生活をより良くする活動、町探検で地域のお店や施設に行く活動など、身近な生き物や人々と一緒に活動している。</li> <li>◆ 一つ一つの活動の関連性や積み重ねを実感せずに取り組んでいる様子が見られる。そのため、児童が自分の力で学習の課題や問題の解決に取り組むことを通して、知的な気付きを促していくとともに、興味関心をもって主体的に取り組む意欲につなげていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 校内だけでなく、身の回りの公園等(平和の森公園やふるさとの浜辺公園等)について知る機会を増やし、季節の移り変わりを感じられるようにする。そのために、季節ごとに校外学習を行う機会を設けて変化に気付くことができるようにする。</li> <li>◆ 他学年や保護者ボランティアの方、地域の方・商店街の方との関わりから「気付き」を得ることができるようにする。町探検において、多様な店や施設と直接交流が行えるよう、場所の精選を行う。また、継続して交流ができるように店や施設の方との連携を密に行う。</li> <li>◆ 振り返りや学習課題の解決過程の中で、児童の問いや疑問を引き出す発問をし、児童の意欲や、気付きの質を高めるために、どのような体験や活動が適切か吟味する。</li> <li>◆ 気付いたことを様々な形で表現できるように ICT を活用する機会を増やす。観察をする際にタブレットで撮影した写真を拡大して色や形、模様などの細かい部分に気付いたり、発表ソフトを使って表現したりすることができるようにする。また、タブレットを使って意見を共有することで視覚的に捉えやすくなり、気付きの質を高めることができるようにする。</li> </ul>

# 令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・楽器やパートを自分達で考え、グループ合奏に取り組むことができた。(高学年)
- ・常時活動でドの位置や音の高さについて少しずつ理解が深まってきた。
- ・リコーダーや鍵盤ハーモニカの活動ができるようになり、少しずつ技能が高まってきている。強弱などで曲に表情をつけたり、指づかいなど奏法にも注意しながら、正しく美しい音色で弾けるようにしたい。
- ・録音や動画を撮り、振り返りをする中で自分たちの演奏を客観的に聴き、改善点を見つけ、次の活動に生かすことができた。

## 2 大田区学力効果測定の結果分析と授業改善ポイント

	現状	改善策
低	<p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 歌詞の表す情景や気持ちを考え、声の出し方や表現の仕方を工夫しようとしている。強弱の違いやリズム、旋律の反復を聴き取ることはできたが、それを音楽づくりに生かすまでには至っていない。</li> <li>◆ 拍子やリズム、曲想まで考えることのできる児童はクラスでも少数である。</li> </ul> <p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 多くの児童が正しい音程で歌ったり、いろいろな楽器を演奏したりすることができる。鍵盤ハーモニカの演奏ではドの位置が分からなかったり、音の高さの理解ができていなかったりする。</li> <li>◆ 指づかいが正しくできていない児童が多数いる。楽譜の通りに弾けても、音が切れてしまって、美しい演奏とは言い難い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ リズムを反復したり強弱の変化を表現したりする楽しさを味わわせられるような活動(ドラムサークルなど)を使って音楽のしぐみを体で感じ取り、少しずつそれを活用できるような活動を取り入れる。</li> <li>◆ 普段から指揮をやらせたり、手拍子や足踏みでリズムを刻むなどし、「拍」を意識させる。</li> </ul>
中	<p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 楽器の響きや特徴を感じ取り、それを基に音楽の表現を考えて工夫したり、楽しさを感じながら聴いたりしている。</li> </ul> <p>&lt;知識・技能&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 静かに集中して演奏する場面、少人数で他の楽器と合わせて演奏する場面をつくる。</li> <li>◆ 常時活動にドの位置が分かるような活動をしたり、視覚的に音の高さを確認できるものを貼ったりしておく。</li> <li>◆ 器楽に取り組む際に、運指の指導も丁寧に行う。大きな鍵盤シート等を使用し、模範を示しながら取り組む。</li> <li>◆ 楽曲に合った身体表現やボディパーカッションなどを取り入れながら鑑賞するなど体で感じる授業を工夫する。</li> <li>◆ リコーダーの導入時に運指、姿勢、息の強さを確認し、一人ひとり演奏する機会を設け</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 楽器の奏法を工夫することで表現が変わることを理解しているが、それを生かして演奏することが苦手である。</li> </ul> <p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 打楽器だけの音楽や簡単な作曲などの音楽づくり、二部合唱、器楽演奏、全てにおいて技能の差が大きい。</li> <li>◆ 歌唱や合奏においては、譜読みをすることで精一杯で、音色や強弱等を工夫するところまではできていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ よってどんなふう演奏したいか思いをもてるような場面を設定する。 思いをもって演奏してものに対する教師の価値づけをしっかりとしていく。</li> <li>◆ 楽器に触れる機会を与え、各楽器の基礎的な奏法を覚えられるようにする。そして合奏における主旋律や副旋律の役割を考えさせ、バランスを考え、楽曲にふさわしい演奏をできるようにする。</li> <li>◆ 自分なりに表情をつけたり、工夫したりできるよう、表現のヒントを与えたり、あらゆる場面で話し合い活動を取り入れ、自分の意見を堂々と共有できる雰囲気づくりを大切にし、「音楽を楽しむ」ことを感じられる授業を目指す。</li> </ul>
高	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 旋律の重なりに気づき、互いの歌声を聴いて声を合わせて歌うことができる。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 声や楽器の重なりに気づき、美しさや良さを感じ取ることができる。曲想にあった楽器の表現や、どのように演奏したいかについて考えたり、思いをもったりすることが課題である。</li> </ul>	<p>る。また、リコーダーのデジタル教材も活用し、視覚的にも分かりやすい授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 楽器の強弱やマレットによる音色の違いなどに興味をもたせ、表現の幅を広げられるよう指導する。</li> <li>◆ 歌や器楽合奏を録音し、客観的に聴くことに</li> </ul>

# 令和7年度 図工科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・材料、道具、表現領域を考慮しながら年間の学習を進めた。また、一人一人の表現を十分に発揮できる題材を工夫した。安全正確に技能を習得できるように題材配置や指導法を工夫する。
- ・様々な表現方法を工夫したり、根気よく作品作りに取り組んだりする姿勢に課題があり、見通しをもって授業時間内に完成させることができない児童が見受けられる点が課題である。

## 2 大田区学力効果測定の結果分析と授業改善ポイント

	現状	改善策
低	<p>〈思考力, 判断力, 表現力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感じたことや想像したことから表したいことを見付けて表すことができるが、自分の考えに自信をもてず、自分なりの表現方法を考えることに課題がある児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 児童が手や体全体を使って見たり触ったり試したりできるよう支援し、自主的に活動に向かうようにする。グループ活動をしたり、お互いの作品を鑑賞したりすることで、それぞれの表し方の面白さに気付き、違いの良さに気付くことができる環境を設定する。</li> <li>◆ 一人一人の発想や構想のユニークさ、面白さなどを共感的な姿勢で見取る。じっくり取り組めるように言葉がけや材料等の環境的な側面で支援する。一人一人の発想や構想のユニークさ、面白さなどを共感的な姿勢で見取る。じっくり取り組めるように言葉がけや材料等の環境的な側面で支援する。</li> </ul>
中	<p>〈知識及び技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい材料や用具に興味を持って、工夫しながら表そうとしているが、使用方法や表現方法が一度では理解できない児童がいる。</li> </ul> <p>〈思考力, 判断力, 表現力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 材料などに進んで働きかけ、見付けたことや感じたこと、想像したこと、みたことから思いを膨らませのびのびと造形活動に取り組んでいる。</li> </ul> <p>〈知識及び技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用具の使い方に慣れ安全に使用しているが、自分の表したいことに合わせて材料や用具の特徴を生かして使うところまで至っていない</li> </ul>	
高	<p>〈思考力, 判断力, 表現力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 造形活動への興味・関心は高いが、感</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ つくったりつくり変えたりしていく中で、自分なりに表し方を工夫していくために、自分の感覚や行為を通して材料の特徴を捉えさせ、用具の使い方をスモールステップで指導していく。</li> <li>◆ 表したいことに合わせて、材料や用具が適切であるかどうか判断したり選んだりして安全な使い方にも気を付けながら使うことができるように指導する。</li> <li>◆ 課題の終末に、活動を振り返ってカードに記述させることで自分の表現を見つめさせ、どんな力が身に付いたかを自覚させ、次の課題の目当てをもたせる。</li> <li>◆ 材料に触れる、用具を使用する、友人と交流する、言葉で考えを整理するなどを通して、表したいこと</li> </ul>

<p>じたこと想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから発想や構想することが苦手で自分の表現に自信がもてない児童がいる。</p> <p>〈知識及び技能〉  ・技術面・進捗など、個人の能力差がある。個々の想いを受け止め、見通しがもてる提案をする等の個別対応が必要である。</p>	<p>を見付けることで自信をもつような指導の工夫をする。</p> <p>◆ 児童自身が材料や用具を活用しながらその効果や可能性に気付いたり、そこから発想を広げたりしながら自分で選択して表現できるような指導をする。</p>
---	--

# 令和7年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・食生活について、一昨年度に比べて、調理実習を行うことができた。学年相応の技能習得を目指せるよう、実習だけでなく、事前指導の時間も大事にして、知識を付けた上で臨むことができた。今年度も学期に1回は調理実習の時間を取り、技能習得を目指す。
- ・裁縫には十分に時間をかけることができ、技能の習得に繋がった。昨年度は展覧会があったことで、家庭科の作品製作にかかる時間を多くとることができたことが関係していると考えられる。毎年の課題であるミシンの使い方は、引き続き丁寧に、繰り返し練習していく必要がある。

## 2 大田区学力効果測定の結果分析と授業改善ポイント

	現状	改善策
高学年	<p><b>【食生活について】</b>            ☆調理実習は、包丁の使い方、分量の感覚などに経験による技能の差がある。しかし、調理実習に対する意欲は高く、班で協力しながら調理をしたり安全に活動したりすることができる。            ☆炒める、ゆでるなどの調理方法の違いや特徴の知識について、教科書だけで理解することは難しい。</p> <p><b>【衣生活・住生活について】</b>            ☆「玉結び」、「玉止め」といった技能の習得に差がある。布を用いた物の製作では、学んだ縫い方を使って意欲的に製作ができていた。また、一人で取り組むのではなく、友達と話し合ったり教え合ったりしながら製作を楽しむ児童がいた。            ☆ミシンの取り扱いについては、上糸や下糸の取り付け方の習得は未だ難しい児童が多い。一方、縫い進めていくと自分の目的や計画に沿って製作することができていた。            ☆家庭科で学んだ整理・整頓や清掃の仕方を、自分の生活に生かそうとすることができた。</p> <p><b>【家族や家庭について】</b>            ☆普段から家庭での自分の役割がある児童が多く、家族の一員としての自分の役割を感じている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 調理実習で学んだことを、家でも実践できるようにする。限られた授業時数の中で、実習の機会を増やしたり、経験できる回数を増やしたりすることで、技能の差を補う。</li> <li>◆ 家庭科の時間だけでなく、学級活動の時間なども活用し、栄養士と連携を図りながら食事の役割や大切さを理解できるようにする。</li> <li>◆ 教科書にあるデジタルコンテンツを活用し、実習だけでは触れきれない部分について、理解を深められる工夫を行っていく。</li> <li>◆ 裁縫等の指導では、電子黒板を効果的に活用し、拡大投影機で教員の手元を写して動きを指導したり、インターネット上の家庭科に関する動画を投影し、操作のポイントを説明しながら指導したりする。また、練習用の布に繰り返し時間をかけて練習することで、習得できるようにする。</li> <li>◆ 製作物は同じ中にも、各個人の工夫を加えられるようにし、さらに製作への意欲を高める。</li> <li>◆ 製作物の縫い方、適した布、裁ち方などの視点を与え、観察の時間を十分にとる。また、必要に応じて示し、イメージできるようにする。実習の際は一つ一つの段階を丁寧に指導する。</li> <li>◆ 整理・整頓や清掃の仕方について、家庭と連携をしながら、学校で学んだ知識技能を生かしているか保護者に確認、価値付けをしてもらい、実生活に生かそうとする意欲を育む。</li> <li>◆ 家庭と連携し、長期休みなどを利用し、調理や裁縫の課題を出すようにし、少しでも経験を増やしていく。</li> </ul>

# 令和7年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・休み時間に持久走タイムを取り入れたことによって、体力の向上へつながった。
- ・水泳指導時間を増やしたことにより、泳力の向上へつながった。
- ・跳び箱、マット運動の学習で、技カードを活用したことで意欲的に技に取り組む児童が増えた。(中・高学年)

## 2 大田区学力効果測定の結果分析と授業改善ポイント

	現状	改善策
低	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 反復横とび、50m走の数値が全国と比べて下回っている傾向にある。(令和7年度体力テストの結果より)</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 基本的な運動能力はあるが、50m 走のタイムのみ全国平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 体力テストの2週間前から、各種目の練習場所を設ける。</li> <li>◆ 軟性を高める運動を各担任が理解し、準備運動に取り入れるようにする。</li> <li>◆ ラダーやミニハードルを使った運動遊びも意図的に取り入れる。</li> </ul>
中	<p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 50m 走のタイムが全国平均を下回っている。鉄棒など腕で体重を支えることが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ICT を活用して自分の運動の様子を見られるようにする。(遅延カメラの活用)</li> <li>◆ 器械運動、陸上運動はそれぞれの技のポイントが書かれた学習カードを活用し、めあてをもって取り組ませる。</li> </ul>
高	<p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 器械運動が得意な児童が多い。一方で、陸上運動の技能が低く、走る、跳ぶといった動きを苦手としている児童が多い。</li> </ul> <p>&lt;主体的&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 運動に関する意欲は高く、楽しんで取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 動画教材を活用し、技のポイントや身体の動かし方を視覚的に伝える。</li> <li>◆ 高学年では、体力測定の結果から自分の体力を高める活動に取り組ませる。</li> <li>◆ 水泳の指導時間を増やし、課題別練習の時間を多く設定する。</li> <li>◆ 教員間で水泳指導の情報を共有し、指導方法や内容に差が生じないようにする。</li> </ul>
共通	<p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 走る、跳ぶといった運動を苦手としている児童が多い。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 学年によって泳力に大きな差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 走る経験を多く積ませるために、持久走月間を設定する。</li> <li>◆ 短縄週間を活用し、足腰の筋力の向上や体力向上の場を設定する。</li> </ul>

## 令和7年度 外国語活動・外国語科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・授業のスタートは、挨拶・月日・曜日・天気・今の気分を表す表現を確認する流れを全学級で統一して実施することで、日常会話で使用する基本的な表現を習得することができた。
- ・色、形、数字などの身近なものを示す英単語を正確に聞き取り、意味を理解することは概ねできている。

#### (2) 課題

- ・アルファベットの太文字や小文字など活字体を正しく書く活動に課題が残る。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果
第6学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△

#### (2) 分析（観点別）

##### 6学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英単語や会話の表現などは、繰り返し発声練習を行うことで、正しい発音ができるようになった。</li> <li>・音声を聞き、活字体の大文字の書き取りに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることは概ねできている。</li> <li>・スピーキングテストで人前で話すことに抵抗感をもつ児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な英語表現に対して、慣れ親しもうと、進んで発音練習やコミュニケーション活動に取り組む姿が見られる。</li> <li>・書く活動に対して、消極的な児童もいる。</li> </ul>

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で聞いたことのある英単語を使い、楽しく英語に慣れ親しむことができるような活動を積極的に取り入れていく。</li> <li>・ALTの発音を真似て話す場面をたくさん設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した英単語の定着を目標に、コミュニケーション活動を多く取り入れたり、習得した英単語を振り返る時間を設けたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習では、英語の歌やゲームを通して、英語を使ってコミュニケーションを図る楽しさを体験する。</li> <li>・English Caféや休み時間、放課後にALTと触れ合う時間を設定し、英語を使ってコミュニケーションを図る楽しさを体験する。</li> </ul>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・教科書やデジタル教材を活用し、様々な国の文化や習慣の違いを知り、日本との共通点や相違点について話し合う活動を取り入れる。</li><li>・発音練習を繰り返し行い、英単語の正しい発音を覚えられるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・新しい英単語や表現を学ぶ際には、イラストと英単語を示すことでスペルを見る機会を増やすようにする。</li><li>・既習事項の確実な定着のために、授業の始めでは、前回学習した英単語や表現を復習する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ALT や担任が一对一で質問などを行うことで、個別に発音や会話をする機会を増やすようにする。</li><li>・English Café や休み時間、放課後にALT と触れ合う時間を設定し、英語を使ってコミュニケーションを図る楽しさを体験する。</li></ul>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・スモールトークを活用し、教科書に示されている単語や表現以外を知る機会を増やしていく。</li><li>・発音だけでなく、単語や文を可視化し、文字と音が一致できるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・様々な場面の会話を聞く機会を意図的につくるようにする。また、その会話に対して、自分の考えが言えるように支援する。</li><li>・例文を見ながら英作文をする活動を多く取り入れる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・活動では、自分の考えが英語で表現できるようになったという達成感を味わえるようにする。</li><li>・English Café や休み時間、放課後にALT と触れ合う時間を設定し、英語を使ってコミュニケーションを図る楽しさを体験する。</li></ul>